



6 今年も全日本社会貢献団体機構の1年の活動を振り返る時期となりました。米国のサブプライムローン問題に端を発した世界不況のため、国内経済も遊技業界もたいへん厳しい経営状況の中での活動でした。

日頃よりご努力いただいている全日本社会貢献団体機構と全日本遊技事業協同組合連合会の皆さまに心より敬意を表します。

この不況は世界的なもので、どこか一国が頑張れば切り抜けられるというものではありません。手を取り合って、それぞれの国の痛みを分かち合いながら努力していく必要があります。最近では勝ち組や負け組というような言葉を耳にしますが、現在の世界の結びつきを考えると、負け組ができたなら全てが負け組に転じてしまいま

す。折しも新型インフルエンザが問題となりましたが、どこかでウイルスが発生すれば世界中に伝わってしまうのと同様です。

そこで必要なことの1つが世界規模での社会貢献の輪の拡大だと私は思います。本報告書を見ても、社会貢献活動は人本来の持つ性善的な面を大いに引き出し、相互理解を深め、チームワークを形成する上で実に有益な取り組みであることがわかります。活動を受ける側だけではなく、行う側にも感謝の心を芽生えさせ、人間性を磨いてくれるものと本書は語っています。皆が苦境にある今日であるからこそ、こうした活動の真価が問われるとともに、波及効果も期待できるのではないのでしょうか。

私は文化的なあるいは人道的な国際交流を

7 続けていくことで、社会貢献活動の潮流は確実に対岸に届いていくと確信しております。実際にこれまでに多くの感謝の言葉に触れることができ、その信念を新たにしているところです。

今後も皆さまとともに、この道を歩んでいきたいと願っております。

ますます世界の多様化は進んでおりますが、広島で被爆した身としては何としても恒久の世界平和の実現を願ってやみません。世界情勢に影響を及ぼす力を考えるとき、ハード面では政治力、軍事力、経済力といったものがあげられます。ソフト面では文化力、福祉力といったものがあげられます。ハードな力は即効力をもちますが、それだけで世の中を平和裡に治めることが困難なことは歴史が証明しています。世の中を

円満に治めるには、やはりソフトな力も必要とするのです。しかし、ソフトな力が効力を発揮するにはそれなりの時間を要します。

全日本社会貢献団体機構の活動は当然ながら後者です。しかし、こうした地道な努力は必ず大輪の花を咲かせます。その日をめざして日々、全日本社会貢献団体機構が、社会のさまざまな分野に支援の手を差しのべている姿は尊いものです。私はこうした姿勢こそ、文字通り世界平和に貢献するものと信じております。

全日本社会貢献団体機構 名誉会長

平山 邦夫



AJOSC(全日本社会貢献団体機構)並びに全日本遊技事業協同組合連合会の皆さん、この1年間ご苦労様でした。

本報告書に目を通して、今日もまたどこかで皆さまの努力が人々を勇気づけていることを改めて知ることができ、たいへん心強く思うとともに、胸が熱くなる想いがいたします。

ご承知のように業界のみならず、日本国中に経済悪化の影響がでております。GDP成長率は戦後最悪ということになりました。しかし、私のように戦中を経験したものは、最悪という言葉はそう簡単に使うべき言葉ではないと感じています。今が最悪だと申して、戦中に戻りたいという人は誰もいないと思います。

最悪というのは、人の心が無気力となり、すさみきって、他人の存在をまったく無視してしまうような社会です。人が自己の生存のみに腐心するような世界です。残念なことに、この不況を受けて、偽装問題などが浮かび上がってきておりますが、こうした行動はいずれ露見し淘汰されるもの

です。

厳しい環境においてこそ、助け合うことが唯一の生き残り策なのです。人を活かし、自らも生きるという人間本来の社会的な活動こそが明日を生み出す原動力になります。皆さんが日々行われている活動は、まさにその本質を具現化したものです。

経済と文化は表裏一体です。前者は人の口を満たし、後者は心を満たします。どちらが欠けても人間らしく生きてはいけません。社会貢献活動はその重要な文化であると私は考えております。

まだまだ日本には余力があります。都市は焼け野原でもなく、何万人もが命を落としているわけではありません。戦時中、国民が協力しあったと同じように、社会貢献活動も広まっています。その火を消すことのないよう私達も努力して参りたいと思います。

全日本社会貢献団体機構 会長

垣内正太郎



2008年度は100年に1度と言われる世界的不況が日本の経済を大混乱に陥れ、遊技業界にとっても極めて困難な年となりました。そのような中にも、皆さんが社会貢献活動の火を消すことなく、未来の再生に向けての努力を続けてくださったことがこの報告書の隅々に記されています。各地域、各都府県方面遊協、並びに組合関係者に対して、尊敬と感謝の気持ちでいっぱいです。

苦しい時ほど人と人との協力体制が必要であり、その原点として心と心の交流が欠かせません。全日本社会貢献団体機構のロゴマークは人間とハート(心)を模していますが、皆さんの強い心が社会のあちこちで人々の笑顔につながり、活力を創造したことを私は確信しました。

顕彰部門につきましてはこれまでの継続性や独自性を考慮して厳正なる審査を行いました。もちろん異論のある方もいらっしゃるでしょう。実際に人の努力や効果、あるいは意義を同じ数直線上で測ることは難しく、どの取り組みも甲乙を付けがたいというのが本音です。選にもれたとはいえ、

皆さんの活動に上下があるわけではありません。顕彰を受けた事例は全ての取り組みを代表したものであるとご理解いただければと思います。

また、この報告書は社会貢献活動のあり方やノウハウを知るという意味でも、一級品のバイブルです。地域との関わりや他団体との協力体制、組合員や社員の育成方法、経営と社会貢献活動の関係性などさまざまなヒントがたくさん詰まっております。ぜひ、ご一読いただき、今後の参考にさせていただければと存じます。

「禍福は糾える縄のごとし」と申します。この不況は今しばらく続くと思われませんが、それは次世代を創るための試練だとも言えます。社会貢献活動を通じて地域に愛される業界を創るという私たちの姿勢は間違っていない。今こそ、それを確立するチャンスだと考えて、全国の皆さんと前進していきたいと思っています。

全日本社会貢献団体機構 理事長

原田 賢